小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

高松市立川島小学校

関連項目：教育活動プラン③

子どもから広がるボランティア活動の奨励

～中学校区全体で取り組むあいさつ運動「やまグリ」（山田グリーティングプロジェクト）～

目的

本校の子どもたちは，昨年度末の東日本大震災では，中学校区全体で連携しいち早く募金活動に取り組み，人のために尽くそうとする意欲や態度に目が向きつつある。反面，各種調査からは規範意識や他律的に物事を決める自信のなさなどに課題がうかがわれる。そこで，児童の自主的な活動を支援し，人の役に立つことの心地よさや参加することの喜び，また活動が広がることを実感することで，自己肯定感を持ち，自信をもって正しい判断ができる子どもを育てたいと考えている。

内容

● 子どもが動き出すきっかけを仕掛ける

まず，生活目標を通して子どもたちがあいさつを意識できるよう働きかけた。その際，教師も玄関に立ってあいさつをした。すると，ちょうど全校で「ちょボラ」に取り組んでいる時期でもあり，何人かの子どもたちが自分たちもいっしょにあいさつをしてもいいかを尋ねてきた。もちろん大歓迎であることを伝えると少しずつその輪が広がっていった。

【生活目標】

【子どもたちもいっしょに】

● 校区全体での連携

その頃，中学校の生徒会よりいっしょに校区をあげてあいさつ運動をしてみないかという呼びかけがあった。そのことをきっかけに，あいさつ運動が校区をあげての活動「やまグリ」へと広がっていった。

【中学校からの呼びかけ】

【中学生が小学校であいさつ】

● 活動を通して学ぶ

この「やまグリ」の活動では中学生が登校前に母校の小学校へ来てあいさつ運動に参加した。中学生のあいさつを目の当たりにした小学生はその心意気に驚かされた。また中学生が作ったキャラクター人形を借りて運動を盛り上げたり，小学生が中学校へ行きあいさつ運動をしたりといった活動が中学生への憧れにつながると考える。

【ぐり太郎人形もいっしょに】

【小学生も中学校であいさつ】

成果

上記の取り組みは表に出ているものを取り上げたが，その基盤には日常の教育活動の中で，学校生活を少しでもよくしようとする子どもたちの活動の積み上げがある。また，昨年度までの取り組みや地域の思いを踏まえての活動でもある。その際のポイントは教師の関わり方である。ねらいを全教職員が意識し子どもたちへの声かけや指導のベクトルがそろうことで効果的な取り組みとなる。言い換えると「何をするか」以上に「どのように取り組むか」が大切である。また，一点突破も有効であると感じる。しかし，これらがイベントとして終わる懸念は常にある。ただ，活動することで子どもたちの意識は少しずつだが高まっているようである。今後は，この活動が地域へ広がるとともに，あいさつを窓口に子どもたちの心を育てていきたいと考える。